

社会福祉法人さぽうと21

平成28(2016)年度 事業報告書



「自分の知らない世界を知ることができたと同時に、
想像を超えた会社の雰囲気感動しました。」（ブラジル／大学生）

株式会社セールスフォース・ドットコム（Salesforce.com）の社員ボランティアの方に「外国にルーツもつ学生の
ための『就活セミナー』」を開催していただきました。（2017年3月7日／千代田区 丸の内）

社会福祉法人さぽうと21



〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-12-2 ミズホビル 6 階

TEL : 03-5449-1331 ・ E-mail : info@support21.or.jp

URL : <http://support21.or.jp/>

目次

<u>平成 28 年度 事業報告</u>	P. 1
----------------------------	------

I. 生計困難者に対する生活援助事業

1) 自立支援事業

(i) 生活支援プログラム	P. 2
(ii) 坪井一郎・仁子学生支援プログラム（通称：坪井基金）	P. 3
(iii) p p 奨学金（通称：パチンコ・パチスロ奨学金）	P. 4
(iv) 夏 期 研 修 会：グリーンツーリズムを通じた多文化共生推進事業	P. 4
(v) 報告会・交流会：日本と外国にルーツをもつ私たちの『進路選択』	P. 5
(vi) キャリア支援：会社訪問・就活セミナー、資格取得の応援 など	P. 7

2) 学習支援室事業

(i) 日本語、パソコン、学習教科補習等の学習支援	P. 9
(ii) 学習支援室関連の行事等	P. 10
(iii) 委託事業、助成金事業等の実施	P. 11

II. 生計困難者に対する相談事業

P. 16

III. 緊急支援

P. 16

- (i) 緊急支援事業
- (ii) 東日本大震災関連支援事業

IV. 広報活動

P. 19

V. 団体 / 企業によるご協力

P. 20

VI. 平成 28 年度 決 算 ・ 監査報告

P. 21

VII. 役員一覧

P. 25

社会福祉法人さぼうとにじゅういち
平成 28 (2016) 年度 事業報告

さぼうと 21 は、2017 年に設立 25 年目(※)を迎えます。

この度、前身である「インドシナ難民を助ける会」(認定 NPO 法人難民を助ける会 [AARJapan]) から今日まで、活動の多くがボランティアによって支えられてきたことが高く評価され、**第 4 回 エクセレント NPO 大賞「市民賞」を受賞**することができました。

日々、活動を支えてくださる会員・寄付者や、ボランティアの皆さま、様々な機会にご協力を賜っている多くの皆さまのお力あつてのことと、改めまして心より御礼申し上げます。



写真) 第 4 回 エクセレント NPO 大賞 受賞団体の皆さまと審査員の方々。

(日時：2016 年 12 月 15 日/会場：毎日ホール (東京都千代田区))

2016 年度は、730 件の個人、22 団体・企業の方に会費やご寄付をお寄せいただきました。また毎週土曜日の「学習支援室」では、約 100 名がボランティアとしてご協力くださるなど、本年度も難民などの外国出身者の支援を継続することができました。

日本での定住生活が長くなる中で、多様な国籍・ルーツをもった子どもたちが各地で育ち、少しずつ、日本社会で活躍を始めていますが、依然として、行政手続きや医療、進学、就労などについて必要な情報・支援に辿り着いていないケースも見受けられます。

縁あって日本で暮らすことになった難民などの外国出身者の「定住」に向け、活動を充実出来るよう努めてまいりますので、引き続き温かいご支援の程、よろしくお願い致します。

(※) 事業自体は、前身団体から 35 年以上継続しています。

I. 生計困難者に対する生活援助事業

1. 自立支援事業

(i) 生活支援プログラム



① 生活支援金の支給〔就学支援〕

高校や大学、専門学校に在籍するインドシナ難民や条約難民、中国帰国者及び日系定住者の子弟等で、経済的事情により就学が困難な者に対し、「生活支援金」を支給した。

支援金の支給は、2 か月に 1 度、銀行振込にて行った。

■ 2016 年度 生活支援生 総数：52 名

■ 支援金総額：6,900,000 円 / 年

■ 1 人あたり：5,000 円 ～ 20,000 円 / 月

国籍別 内 訳	ベトナム	21 名	高校 13 名 / 短大 1 名 / 専門 1 名 / 大学 6 名
	ミャンマー	6 名	高校 6 名
	中 国	4 名	高校 2 名 / 大学 2 名
	ブラジル	4 名	高校 1 名 / 大学 3 名
	ペルー	7 名	高校 4 名 / 大学 3 名
	ナイジェリア	1 名	短大 1 名
	カンボジア	2 名	高 1 名 / 大学 1 名
	コンゴ民主共和国	1 名	高 1 名
	フィリピン	1 名	大学 1 名
	日 本 (元：ベトナム、カンボジア、 ペルー、韓国)	5 名	高校 3 名 / 大学 2 名

(順不同)

② 生活支援生への対応

i) 面談

対応が必要と思われる学生に対し、夏期研修会にて、役員による個別面談を行った。学業の様子や、進路希望、また家庭状況の変化について聞き取りを行った。事務局内でケースシェアを行い、対応が必要と思われる学生に対しては個別対応を行った。

ii) 支援金振込み確認葉書によるサポート

支援金振り込みの案内状と併せて、返信用の振込み確認葉書を送付した。前月の葉書にある支援生からの近況報告に対し、一言コメントを寄せるなどし、日々顔を合わせることの少ない支援生との関係づくりに努めた。

iii) エッセイの提出

支援生が自身の考えを整理して文章化するトレーニングの一つとして、また支援生の関心や生活状況をよりよく理解することを目的として、エッセイ（800 字程度）の提出を義務付けた。

■ テーマ：以下の 2 つの中から選んで、執筆してもらった。

- 1) 今年最も関心をもった出来事、ニュース
- 2) 今年は〇〇の年、来年は〇〇の年（今年実現したことや来年の目標）

（ii）坪井一郎・仁子 学生支援プログラム（通称：坪井基金）



① 生活支援金の支給〔就学支援〕

東洋熱工業株式会社様からの株主配当金をもとに、主に理系専攻の大学 3 年生から大学院生までのインドシナ難民、条約難民、中国帰国者、日系定住者などの子弟に対し、学業推進のための「生活支援金」を支給した。

支援金は、毎月 1 回、銀行振込で支給した。

■ 2016 年度 坪井支援生 総数：9 名

■ 支援金総額：6,000,000 円 / 年

■ 1 人あたり：40,000 円 ～ 70,000 円 / 月

国籍別 内 訳	ベトナム	1 名	大学院 1 名
	ペルー	3 名	大学院 3 名
	ナイジェリア	1 名	大 学 1 名
	ブラジル	1 名	大 学 1 名
	日 本 (元：ベトナム、カンボジア)	3 名	大学院 3 名

(順不同)

② 坪井支援生への対応

i) 面談

夏期研修会中に、参加役員を交えたグループ面談及び研究テーマに関するディスカッションを行った。学業の様子や、進路などについても聞き取りを行った。

ii) 支援金振込み確認葉書によるサポート

生活支援プログラムと同じ要領で、支援金を振り込む際に「振込みのお知らせ」と「振込み確認の葉書」を送付し、手書きのメッセージのやり取りを行った。

iii) エッセイの提出

坪井支援生としての学業の成果を知ることと、(v) 報告会・交流会 (P.5) であげる「日本と外国にルーツをもつ私たちの『進路選択』(報告会・交流会)」での発表用原稿として、エッセイ(1000字程度)の提出を義務付けた。エッセイは、当日のプログラムに掲載した。

(iii) pp奨学金(通称：パチンコ・パチスロ奨学金)

本年度末に新たに日本人を対象とした生活支援金「p p 奨学金」を試験的に発足させ、2017年度の支援生として8名を選定した。

8名には、月額30,000円～50,000円を給付するもので、2017年3月15日に同年4・5月分の「生活支援金」を支給した。

(iv) 夏期研修会：グリーンツーリズムを通じた多文化共生推進事業

【助成】平成28年度 日本郵便年賀寄附金配分事業 / 【助成総額】2,090,000円

親が外国出身者であることや、経済的に困難な中で、就学・就労の選択肢が限定されがちな支援生の自立を後押しする目的で開催している。来日経緯や学年、出身地域の異なる参加者が、外国出身者として日頃感じる悩みなどを、同年代の仲間と共有できる機会となっている。

本年度は、日本郵便年賀寄附金の助成を受け、「グリーンツーリズムを通じた多文化共生推進事業」と題し、2泊3日(栃木県 大田原市)で実施した。

実施した背景に、「農業に興味がある」「他の地域に暮らす外国人住民の状況を知りたい」「自然の中で過ごしたい」という学生の声があったことから、外国にルーツをもつ学生と、農家を営む地元住民との交流を目的に開催した。また栃木県は、外国籍住民が比較的多く、多様な農業体験が可能なことから開催地と決まった。

- 期 間：2016 年 8 月 22 日（月） ～ 24 日（水） 2 泊 3 日
- 会 場：栃木県 大田原市・那珂川町 農家 14 軒
- 参加者：11 カ国・51 名



参加者の声 ①

ほおずきを頂いた時、とても甘くて、いつも食べている野菜でもこんなに違うんだなと驚きました。おいしい野菜を知れば、苦手な方も食べられるようになるんじゃないかと思いました。
これまでの考えが変わるような経験ができて本当に良かったです。（高校生・ベトナム）

参加者の声 ②

農家さんは高齢化を心配していて、僕たちが手伝うととても喜んでくれた。喜んでくれたことに対して僕たちも嬉しくて、このうれしさを多くの人が共有すれば、農業に興味をもつ若者が集まるのではないかと思いました。（大学生・ペルー）

協 力：宇都宮大学 多文化公共圏センター、株式会社大田原ツーリズム、農家の皆さま、
認定 NPO 法人難民を助ける会 [AAR Japan]

後 援：公益財団法人栃木県国際交流協会、株式会社下野新聞社 / 助 成：日本郵便 年賀寄附金

（Ⅴ）報告会・交流会：日本と外国にルーツをもつ私たちの『進路選択』

（ⅱ）坪井基金（P.3）を受給している学生の学業成果の報告と、団体/企業や支援者の方との交流を兼ねた「報告会・交流会」を開催している。

来場者に「留学生」以外の外国出身の学生が日本にいることを知ってもらい、彼らの進路選択にかかわる社会的課題について共に考える場となっている。

また、日本に定住する外国出身生徒にも参加を呼びかけ、発表者の報告を通して、自身の進路選択に対する意識を高めてもらった。

- 日 時：2017 年 2 月 26 日（日） 13 時 ～ 17 時
- 会 場：国際文化会館 講堂（東京都 港区 六本木 5 - 11 - 16）
- 発表者：5 カ国・ 8 名 ※ 1 名 病欠
- 参加者：53 名

1. 生活環境と人種と病気	（ ブラジル・山梨大学 医学部 医学科 4 年 ）
2. 高エネルギー研究室で行っている研究の紹介	（ ペルー ・ 筑波大学大学院 数理物質科学研究科 物理学専攻 修士 1 年 ）
3. 米国におけるマイノリティ文学の現在と未来	（ ペルー ・ 神戸大学大学院 人文学研究科 文化構造専攻 修士 1 年 ）
4. 次世代テクノロジーに向けた新分子センサーの開発	（ ベトナム ・ 東北大学大学院 理学研究科 化学専攻 博士 1 年 ）
	分子の検出技術は、これまで、社会の発展に大きく寄与してきました。バイオセンサーによる医療診断、自動車制御のためのガスセンサーなどが応用分野として挙げられます。未知の分子の発見、それによる難治性疾患の解明、ナノマシンの超高精度制御・・・これを実現するための新原理センサーの開発が、私の研究です。
5. タンパク質研究の道のり	（元カンボジア ・ 東京大学大学院 新領域創成科学研究科 先端生命科学専攻 修士 2 年）
6. 人工知能に対する誤解とその影響	（元ベトナム ・ 慶應義塾大学大学院 理工学研究科 開放環境科学専攻 修士 2 年）
7. 移住者二世のアイデンティティー意識	（ナイジェリア ・ 国際基督教大学 教養学部 アーツ・サイエンス学科 人類学専攻 4 年）
	私って何者なんだろう？ 大学の「心理人類学」という講義で「社会や文化が人の心のあり方(=アイデンティティ)に大きく影響する」と学び、私と同じように日本で生まれ育った移住の子供たちが、どんな事を考え、思っているのか調べようと思い、研究テーマを選びました。
8. 今までの研究成果について（iPS 細胞 研究）	（ ペルー ・ 京都大学大学院 医学研究科 医科学専攻 博士 1 年 ）

参加者の声 ①

最先端の技術・研究に取り組む様子を伺え、また内容を分かり易く発表して頂き、大変刺激を受けました。研究を将来・社会に生かして貢献していこうという姿勢に、とても力強く感銘を受けました。

(女性・行政職員)

参加者の声 ②

優秀な学生さんをこんなにもたくさん育ててくださったことに、ただただ感謝の思いです。日本だけでなく世界に貢献する最先端の研究を担ってくださり、今後が楽しみです。

(男性・支援者)

(vi) キャリア支援：会社訪問・就活セミナー、資格取得の応援 など



卒業後の仕事の選択肢を増やすため、大学などに進学を希望する者も増えているが、日本語や情報収集力の面などから、日本の「就職活動」に苦戦している学生も見受けられる。

社会人になった卒業生や、団体・企業の協力により、様々なプログラムを提供した。

① 会社訪問・就活セミナーの実施

i) 会社訪問

株式会社セールスフォース・ドットコム 協力の下、外国にルーツをもつ学生の「キャリア教育」につながるプログラムを実施。8月は、職種を幅広く捉えることを目的に、「IT・技術系」、「営業・マーケティング系」、「バックオフィス系」で働く社員の方10名以上から話を聞く機会を提供した。

- 日 時：2016年8月9日（火）10時～14時半
- 会 場：株式会社セールスフォース・ドットコム 本社（千代田区丸の内2-7-2）
- 参加者：6ヵ国・15名

ii) 就職活動セミナー

3月は、「就活セミナー」を実施。参加者が「自己PR」と「志望理由書」を作成し、社員の方からアドバイスを受けた。「採用チーム」による講習では、日本には160以上の業界があることや、就職活動の進め方、面接官の視点など、実践的な内容を学んだ。

- 日 時：2017年3月7日（火）10時～15時
- 会 場：同上
- 参加者：6ヵ国・10名

② 卒業生との交流会



社会人1～6年目の卒業生を囲んだ交流会を開催。メーカーや人材紹介、航空、通信、保育士など、様々な分野で働く卒業生が集った。仕事内容や、就職活動で意識したこと、転職など、幅広いテーマで話してもらった。後輩だけでなく、卒業生同士の情報交換の場ともなった。

③ 就活応援金・就職支度金の支給

i) 就活応援金の支給

就職活動中はアルバイトの時間が制限されてしまうため、就職活動にかかる交通費やスーツ、参考書などの購入に充てられるよう、就活応援金を支給した。

- 支給者数：4名（専門1名／短大1名／大学2名）
- 支給総額：120,000円（1人あたり30,000円）

ii) 就職支度金の支給

正規職員としての就職が決定した支援生に対し、就職支度金を支給した。

- 支給者数：6名（専門1名／大学3名／大学院2名）
- 支給総額：180,000円（1人あたり30,000円）※1名は申請せず

④ 資格取得の応援

就職や進学に向けて活かすことのできる資格試験（英検・TOEIC・TOEFL）の受験料を支援する「キャリア支援制度」を、引き続き実施した。本年度は、日本語能力試験の受験者（学生、学齢超過の若者）も、新たに対象に加えた。

- 支給者数：のべ11名（高校7名、大学2名、大学院1名、既卒者1名）
- 支給総額：88,436円（英検2級・TOEFL・IELTS・日本語能力試験N1・N2）

協力：Project HEAT（HSBCグループ）、株式会社セールスフォース・ドットコム、当会 卒業生

● Project HEAT ●

世界的金融グループ **HSBC グループ** では、「Project HEAT」（経済的に困難な外国にルーツを持つ子どもたちへの支援・寄附事業）を実施されています。2016年度、当会も支援先のひとつに選ばれ、「生活支援金」の充実や、学生たちの進学や就職に役立つプログラムを提供することができました。

2. 学習支援室事業

(i) 日本語、パソコン、学習教科補習等の学習支援

【助成】平成 28 年度 東京都在住外国人支援事業助成 / 【助成総額】998,000 円

外国出身者が、単に「必要最低限の日本語を習得すること」だけを目指す支援ではなく、その自立を後押しし、社会参加の道を拓いていくことを目的として教室を運営した。これまでミャンマーにつながる方々が受講者の大半を占めていたが、アフガニスタン、エチオピア、コンゴ民主共和国等、他の地域出身者も参加している。

- 開催期間：2016 年 4 月 1 日 - 2017 年 3 月 31 日、毎週 土曜日 10 時～18 時
(必要性があると判断された場合は平日にも授業を実施した)
- 開催場所：さぼうと 21 事務所会議スペース並びに難民を助ける会事務所
- 受益者数：2,758 名 (のべ)
- 稼働ボランティア数：2,404 名 (のべ)
- 登録受講者数：約 90 名 (うち今年度新規登録 46 名) 6 歳 ～ 75 歳
 - * 国籍：大半はミャンマー (ビルマ) が占め、それ以外は各国複数名 (アフガニスタン、エチオピア、コンゴ民主共和国、シリア、ベトナム、元中国 他)
- 登録ボランティア講師数：約 100 名 (うち今年度新規登録 41 名)
 - * 聖心女子大学 SHRET のメンバーがボランティアとして参加。

【 受講者動向 】

- 進 学
 - 大 学 4 名 (ミャンマー3 名、イラン 1 名)
 - 専門学校 1 名 (ミャンマー1 名)
 - 都立高校 4 名 (ミャンマー3 名、シリア 1 名)
- 日本語能力試験
 - N1 合格 2 名、N2 合格 3 名、 N3 合格 3 名

【 クラブ活動など 】

ボランティアや学習者が主体的に行うイベントやクラブ活動が行われている。現在、「ギタークラブ」、「さぼうとカフェ」、「小中高生対象の合気道教室」(協力：明治学院大学) が活動中。

(ii) 学習支援室関連の行事等

受講者の学習意欲向上、日本語力の向上、ボランティアの指導力強化、参加者相互の交流、情報交換等を目的として、様々な行事を実施。

〔備考〕 ■通常の学習支援室事業 □その他

4月	9日	■ お餅を食べよう会 ■ 大正大学より実習生の受け入れ2名（～7月まで）
6月	4日	■ IBM ボランティア有志のワークショップ「エンジニアになって橋を作ろう！」（参加者：19名）
	18日	■ ボランティア勉強会「外国につながる中学生の学習支援」（参加者：12名） 講師：小川 郁子（本北区立稲付中学校日本語適応指導教室教員）
	25日～	■ 七夕短冊 作成（さぼうと21事務所にて展示）
7月	2日	■ BBQとスポーツの会（参加者：85名） 開催場所：木場公園
	23日	■ ボランティア講師 会議 + 講演会 + 交流会（参加者：22名） 講演会「アフガニスタン-パキスタン-そして日本」（アフガニスタン出身者）
	30日	■ ダイバーシティカップ（フットサル大会）参加（参加者：11名） 〔主催：NPO 法人ビッグイシュー基金〕
8月	1日～31日 （計19日間）	□ 小・中学生向け「夏休み集中学習支援教室」実施（参加者：22名） 〔共催：一般財団法人 柳井正財団、明治学院大学〕
9月	11日	■ 日帰りバス旅行（参加者：80名） 訪問先：茨城県／筑波山、JAXA 宇宙センター、梨狩り
10月	1日、2日	■ グローバルフェスタ参加（展示、飲食ブース出展）
12月	24日	■ としわすれランチ（企画実施：カフェプロジェクトチーム）
1月	7日～	■ 書き初め（さぼうと21事務所にて展示） ■ お餅を食べよう会
	14日	■ ボランティア講師・新年顔合わせ会（参加者：56名）
3月	25日	■ 学習発表会（参加者：71名 ※発表者38名を含む） 開催場所：三州郷土館
	27日～4月5日 （計8日間）	□ 小・中学生向け「春休み集中学習支援教室」実施（参加者：22名） 〔共催：一般財団法人 柳井正財団、明治学院大学〕



バス旅行、梨狩りを満喫！



フットサル大会、さぼうと FC 大健闘！

(iii) 委託事業、助成金事業等の実施

① 『生活者としての外国人』のための日本語教育事業

文化庁の助成を受け、今年度も『生活者としての外国人』のための日本語教育事業を実施。日本に暮らす外国人住民（特に難民）が「安心」「安全」を確保し、さらに個々の「安定」「成長」を目ざして日々過ごせるようになること、より多くの日本人住民・先輩の外国人住民が、彼らの良き「伴走者」として成長すること、その結果として、関わる全ての人たちが多文化共生社会日本の一員として共に手を携え前進していけることを目的に、以下3つの取り組みを実施。

■ 実施期間：2016年4月18日 - 2017年3月20日

■ 事業決算額：2,550,571円

● 取組1：日本語教育

＜日本語教室（難民のための体験型初級日本語講座）＞

日本語教育のプロの指導者のもと、「体験」を中心にすえた初級日本語講座を実施。参加型の学習を通じて、学習者が日本人とのコミュニケーションをおそれず、自ら考え、行動できるようになることを目標とした。

□期 間：2016年5月14日 - 2016年10月1日（春夏講座）

2016年10月15日 - 2017年3月18日（秋冬講座）

*受講時間：各講座 計60時間（1回3時間×20回）

□場 所：さぼうと21事務所会議スペース・にほんごタウン

□受講者の総数：15名（国籍：ミャンマー、エチオピア、シリア、チュニジア等）

□指導者：ディラン恵子氏 / 指導補助者：中島 恵美氏

＜生活力向上のためのワークショップ＞

生活上で必要となる知識を得ることを目的とし、参加型ワークショップを実施。テーマ毎に専門家を招いて6回実施。正しい理解を促すため、全部の回でビルマ語通訳を配置。

より多くの外国人住民に対して実施するため、出張講座も行った。出張講座で扱うテーマは、今まで実施してきたワークショップの中から選び、作成教材等を有効活用した。

□期 間：2016年8月6日 - 2017年2月4日（1時間半×8回、3時間×1回）

□場 所：さぼうと21事務所会議スペース 他

□受講者の総数：のべ193名（国籍：学習支援室ボランティアも含み、国籍はミャンマー、エチオピア、コンゴ民主共和国、ベトナム等）

□各回テーマ：「子どものための防犯教室」「健康診断を受けよう」「冠婚葬祭マナー」「護身術を学ぼう」「防災」「女性の健康」

□講 師：武田 信彦氏（うさぎママのパトロール教室）、富田 茂氏（高田馬場さくらクリニック）、斉藤 由美氏・伊東 聡氏（株式会社 東京ソワール）、

浅川 達人 氏（明治学院大学 体育会合気道部顧問）、阿部 秀隆 氏、
高橋 真由美 氏、小倉 丈佳 氏（NPO 法人プラス・アーツ）、上村 いずみ 氏 等



＜日本語教室＞

防災センターで消火活動を体験！



＜ワークショップ＞

防犯教室、熱心に聞く子どもたち

● 取組２：日本語教育を行う人材の養成・研修

＜ブラッシュアップ講座／スキルアップ講座＞

ボランティア教室で活動する方を対象とし、「日本語教育支援のあり方」について理解を深め、日本語支援のスキルを高めること、また各人が所属する日本語教室の活動を活性化する意識とスキルをもてるようになることを目指し、参加型講座を実施。

1) ブラッシュアップ講座

□期 間：2016 年 10 月 23 日 - 2017 年 1 月 29 日（1 回 2 時間半×8 回＝20 時間）

□場 所：さぽうと 2 1 事務所会議スペース

□受講者総数：31 名

□ナビゲーター：岩田 一成 氏、奥原 淳子 氏、長崎 清美 氏

□講 師：上記ナビゲーター3名、宿谷 和子 氏、小山 悟 氏、武田 聡子 氏

□特 徴：「教材を考える」をテーマに、「読み教材」を「知る」「使う」という2つの活動を柱に進めた。

2) スキルアップ講座

□期 間：2017 年 2 月 15 日 - 2017 年 3 月 15 日（1 回 2 時間半×4 回＝10 時間）

□場 所：高齢者総合サポートセンター「かがやきプラザ」

□受講者総数：13 名

□講 師：田中 美穂子 氏

□特 徴：比較的活動経験が少ない方を対象として、「日本語教室で出会う『相手』と『自分』を知る」、「レッスンの設計を具体的に学ぶ」、「より良い活動をするための方策を考える」をテーマとした。

＜理解を深める講座編＞

地域日本語教室で活動するボランティアが、「生活者としての外国人」について理解を深めることを目的として実施。「異国日本を生きる私、そして私と家族」のタイトルで、定住外国人の家族が抱える困難や、親世代、若者世代それぞれが抱える課題について、当事者からの発信を中心とした講座を開催した。

□日 時：2016 年 11 月 13 日（日）11 時～17 時

□場 所：明治学院大学 高輪校舎

□受講者の総数：58 名

□語り手：Nguyen Tat Trung さん（東北大学理学研究科化学専攻博士課程 1 年、インドシナ難民 3 世）

景山 宙さん（住友重機械工業株式会社に勤務、中国系日本人）

安富祖 樹里さん（上智大学ポルトガル語科 4 年、日系ブラジル人 3 世）

王 雁さん（大阪府立門真なみはや高等学校中国語教諭、中国生まれ）

□講 師：田中 ネリさん（臨床心理士 四谷ゆいクリニック）、

野沢 慎司さん（明治学院大学 副学長、社会学部教授）

● 取組 3：日本語教育のための学習教材の作成

地域の日本語教室で勉強中の外国人住民、および日本語学習支援者が利用しやすい教材を提供することを目的として実施。

□期 間：2016 年 5 月 1 日 - 2017 年 3 月 20 日

□作成教材：

1) 動画教材『見ればできちゃうシリーズ★初級 1 目的の場所へ行く』

*以下 URL から閲覧可能。

<https://youtu.be/nalkTXIxJlU>（6 分 53 秒）

2) 「体験型初級日本語講座実例集」

3) 「小さいけれど大切な日本の習慣」

□主な作成者：インタナショナル映画 株式会社、伴野 崇生 氏、矢崎 理恵



＜理解を深める講座＞

臨床心理士の田中ネリ先生の講義



＜学習教材の作成＞

動画教材「目的の場所へ行く」

② 難民の小中学生を対象とした「集中学習支援教室」

小学 6 年生、中学 1～3 年生の学生たちを対象に集中学習支援教室を実施。毎週土曜日の学習支援は大きな成果をおさめているものの、週に 1 回だけの支援では学校の宿題対応や直近の試験対策に多くの時間が費やされ、学生たちの基礎的な学力をつけるという点では限界があり、課題も多くあった。そこで、集中学習支援の機会を提供することで学生たちの日本語力や学力の向上を図り、また学習習慣を身につけ、家庭内での自立学習ができるようになることを目的に開催。

■ 開催期間： 2016 年 8 月 1 日 - 2016 年 8 月 31 日（夏休みの間、計 19 日間）

2017 年 3 月 25 日 - 2017 年 4 月 5 日（春休みの間、計 8 日間）

■ 開催場所： 明治学院大学白金キャンパス内教室、日本福音ルーテル社団 JELA 会議室

■ 受講者数： のべ 44 名（国籍：ミャンマー、アフガニスタン、エチオピア、コンゴ民主共和国、シリア、ベトナム）

■ 学習科目： 日本語（国語）、算数（数学）、理科、社会、英語

■ 共 催： 一般財団法人 柳井正財団、明治学院大学社会学部・教養教育学部「内なる国際化」プロジェクト

■ 事業決算額： 3,327,064 円



参加者の声 <受講生から>

- ・小学校に入った（編入した）時に色々勉強ができなかった。たとえば理科です。理科はよく分からなくて、夏休で一生懸命やって、できるようになりました。
- ・数学は学校で進んだ時、色々できて、手ももっとあげることができたので良かったと思います。



参加者の声 <受講生の親から>

- ・ありがとうございます。今までいつも夏休みは寝てばかり。私はパートで早く出てしまうので、起こすこともできません。今年の夏は初めて。朝早く起きて毎日勉強。本当に嬉しいです。
- ・長い間、一緒に暮らしていなかったので、子どもの勉強のことは何も分かりません。これからもよろしくお願いします。

③ 定住難民のための「災害時ヘルプカード」作成事業

定住難民等外国出身者が災害に遭った際に、少しでも困難を軽減できるようになることを目的とし、「災害時ヘルプカード」を作成。たとえ日本語ができなくても、カードにあらかじめ自身の情報を記載しておくことで、“自分のことを支援者に正しく伝える”ことができ、また“適切な支援に繋がりがやすい状況を作り出す”ことを目標としている。エドワーズライフサイエンス基金の助成を受けて実施。



表紙



当人の健康状態を記載でき、緊急時の連絡先を記入できるページ

「自身の情報（名前、連絡先、国籍、話せる言語、日本語レベル 等）」「病歴やアレルギー」「緊急連絡先」を記載でき、また「知っておくと便利な番号」等の情報も掲載。常に携帯できるよう、クレジットカードサイズで財布に収納可能。
出来るかぎり“やさしい日本語”で記載し、また日本語がほとんど分からない難民の方をも想定し、一人でも多くの定住難民が内容を理解し記入しやすいよう“英訳”も付けた。

■ 開催期間：2017年3月1日 - 2017年6月30日（予定）

■ 配布部数：1,000部

■ 配布先：

当会に関わりのある定住難民100名、行政機関や外国人支援団体等

※配布だけに留まらず、依頼があれば「防災ワークショップ」を開催し、

防災に関する意識啓発、ヘルプカードの記入支援を行う。

※広く普及させるため当会ホームページに掲載予定。全国の定住難民や外国人支援団体への周知を図る。

■ デザイン協力：NPO法人プラス・アーツ、文平銀座

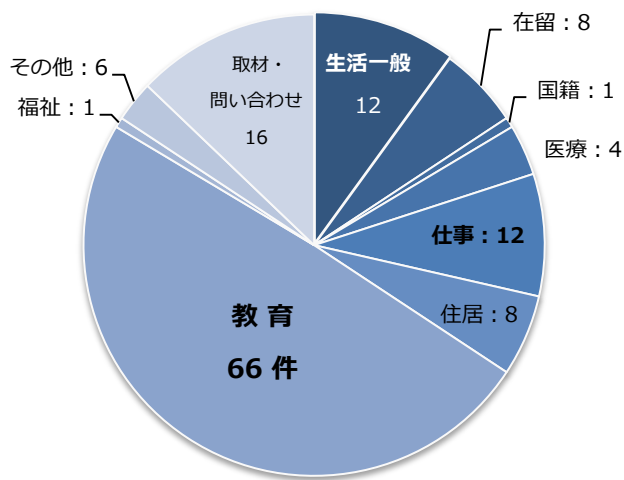
■ 事業決算額：5,000 US\$（日本円で571,429円）

Ⅱ. 生計困難者に対する相談事業

2016 年度	140 件・21 カ国 1 地域
性 別	女性：61 名 / 男性：65 名
地 域	アジア：11 カ国、中南米：2 カ国、 アフリカ：7 カ国、中東：1 カ国 1 地域

原則として、日曜祝日を除く 10 時～18 時、電話、面談、E メール、当会ホームページのお問い合わせフォームより、相談を受けた。

※ 別の案件で、複数回対応している分も含む。



教育 66 件

- ・子どもが来日したばかりで、学校の勉強についていけない。
- ・大学に合格したが、お金が足りず困っている。
- ・学校からもらってきた紙に何と書いてあるか分からない。

生活一般 12 件

- ・公営住宅に応募したいが、書類の書き方が分からない。
- ・子どもの三者面談で、誰かに通訳してもらえないか。

仕事 12 件

- ・4 月に入社したが、「ビジネス日本語」に苦勞している。
- ・「就活」が始まったが、何をしたらいいか分からない。

など

傾向と課題

教育

高校卒業後に進学を希望する学生が増える傾向にある中、進学費用や卒業後の進路を踏まえた学校選びに不安を感じているケースが見受けられた。

仕事

大学に進学したものの、日本語力や情報収集力など様々な要因により、日本の「就職活動」の波にうまく乗り切れていない学生からの相談が目立った。

Ⅲ. 緊急支援

1. 緊急支援事業

経済的あるいは健康上の問題などを抱えながらも、行政機関や他の支援団体から援助を受けられない難民等の外国出身者に対し、人道的な立場から、緊急的に金銭の貸付や支給を行う。

2016年度は、本人の努力にもかかわらず、病気等の事情で卒業時期が予定よりも遅くなり、それまで受けてきた支援が終了となった以下の学生2名に対して、緊急就学支援（6ヵ月間）を以下のとおり支給した。

① 大学生（男性・イラン）

金額：300,000円

期間：2016年10月～2017年3月

② 大学院生【博士課程】（女性・ジンバブエ）

金額：180,000円

期間：2016年10月～2017年3月

2. 東日本大震災関連支援事業

【寄付】サンキョー株式会社 / 【事業費】17,200,000円 ※ 人件費等を除く

2011年3月11日、甚大な被害をもたらした東日本大震災の発生以降、多くの方から温かいお力添えを賜り、過去6年間、姉妹団体の認定NPO法人難民を助ける会〔AAR Japan〕（以下AAR）と共同で被災地の支援活動を継続してきました。

2017年3月末で、継続的な事業活動としては終了となりますが、これまで活動を支えてくださった個人・団体の方々、会員、寄付者の皆様に改めて深く御礼申し上げます。

（i）津波で流失した施設の再建支援

岩手県大船渡市の障がい者福祉事業所「かたつむり」



最終年度となった本年度は、サンキョー株式会社、公益財団法人イオンワンパーセントクラブ、日本ロレックス株式会社をはじめ、多岐に渡るご支援により、2014年からの継続事業である岩手県大船渡市の障がい者福祉事業所「かたつむり」の施設再建支援を行った。

大津波により活動拠点を失ったかたつむりは、震災によって困難な状況に置かれた障がい者の就労支援を続けるため、プレハブの仮設事業所で活動を再開した。

しかし、2014年に大船渡市の復興計画策定によって津波浸水想定区域に指定され、安全な高台への移転を求められた。当会は同年から事業所の再建に向けて寄付を行い、AARとともに、建設資金の支援を各地に呼びかけてきた。2016年に入りようやく移転先が決定し、11月4日に地鎮祭を執り行った。現在は、2017年6月の竣工式を目指して順調に工事が進んでいる。



工事が続く中、29名の障がい者の方々は箱折りや食品の梱包などの作業に熱心に取り組んでいる。2016年には、わかめの茎を割く作業、金属パーツの封入、陸前高田市のふるさと納税返戻品の梱包・発送を新たに請け負うことができた。新施設の完成後は、障害をもった方々が自由度の高い、いきいきとした共同生活を送れる「居場所」となることを目標として、地域住民の方との交流にもより一層努める予定。

写真) わかめの茎を割く作業。塩の匂いが充満する作業室で、真剣に取り組んでいます。

(2016年8月4日、かたつむり)

(ii) 福島県の被災者への支援

原発事故の影響が現在も続く福島県の被災者への支援（仮設住宅訪問、マッサージと傾聴活動、被災した親子や障がい者同士の交流会等）を南相馬市、二本松市、西会津町他、県内各地で実施した。



写真) 仮設住宅での生活が長期化し、体力的・精神的な負担が大きい被災者の方々に、米国の日系人歌劇団によるコンサートを楽しんでいただいた。

(2016年6月、福島県川俣町)



写真) 被災した子どもたちの運動不足やストレスの解消などを目的として始まった「西会津ワクワク子ども塾」。今年度は町民も協力し、手作りの窯でピザを焼くなど、住民同士の交流が活発化している。

(2016年10月、福島県西会津町)

協 力： サンキョー株式会社、公益財団法人イオンワンパーセントクラブ、日本ロレックス株式会社、認定 NPO 法人難民を助ける会 [AAR Japan] 他

IV. 広報活動

1. ニュースレターの発行

広報誌『さぼうと 21 Newsletter』を、年4回発行した。各号は、会員・寄付者、行政や関係団体、CSR活動に取り組んでいる企業等、約750部／回に発送した。

2. ホームページの更新

当会の活動や、難民等の定住外国出身者の状況についての周知、また定住外国出身者への情報提供を目的に、「新着情報」や「ブログ（毎週）」を更新した。

3. 外部での活動報告

学校や団体、公的機関等からの依頼により、事務局長や現場で働くスタッフが、活動報告や難民等の定住外国出身者の置かれている状況について報告した。

5月	清泉女子大学「日本語教育論」内
6月	大正大学「日本に暮らす難民を知る」
7月	東京学芸大学「学芸フロンティア科目F」
9月	立教大学「国際協力人材育成プログラム」
11月	NPO法人多文化メンタルヘルス研究所「難民理解講座」
12月	川崎市 高津市民館「平和・人権学習Ⅲ」
1月	埼玉県立大学 社会福祉学

4. パートナiership・イベント

姉妹団体のAARや、NPO法人なんみんフォーラム（FRJ）などと協力し、行事の共催や、支援を必要とする方に関する情報の共有を行った。

10月1日・2日：グローバルフェスタ



「グローバルフェスタ」は、様々な国際協力関係機関や団体が集まり、活動を紹介する場として毎年開催されている。学習支援室の学習者とボランティア講師が中心となり、展示と飲食のブースを出展した。

会場：お台場 センタープロムナード（東京都 江東区）

1月8日：LUSH 代官山店×さぼうと21



株式会社ラッシュジャパンが、15日間「難民支援キャンペーン」を全国で展開。当会は代官山店で1日限定の展示ブースを出展させてもらい、対象商品の売り上げ分をご寄付いただいた。

会場：ラッシュ代官山店（東京都 渋谷区）

V. 団体／企業によるご協力

1. ご寄付

愛知県遊技業協同組合
医療法人北友会
回胴式遊技機商業協同組合
株式会社グローバルユースビューロー
株式会社セールスフォース・ドットコム
株式会社 千歳観光
株式会社 虎屋
株式会社 Mari Company
株式会社ミリオンインターナショナル
株式会社ラッシュジャパン
霧が丘の集いグループ
サンキョー株式会社
全国遊技機商業協同組合連合会
高野興業株式会社
東京都遊技協会
東京都遊技業協同組合
ファースト・パシフィック・キャピタル有限会社
フシミコーポレーション株式会社
プロジェクト・ヒート 2016 (HSBC)
有限会社 タニパテントシステムズ

2. イベントご協力

うさぎママのパトロール教室
宇都宮大学 多文化公共圏センター
株式会社大田原ソーリズム
株式会社セールスフォース・ドットコム
株式会社東京ソワール
株式会社ラッシュジャパン
高田馬場さくらクリニック
特定非営利活動法人 プラス・アーツ
明治学院大学「内なる国際化」プロジェクト
ワーカーズ・コレクティブ生活クラブ FP の会

認定 NPO 法人難民を助ける会 [AAR Japan]

3. 物品ご寄贈

株式会社ラッシュジャパン
宗教法人妙雲寺
特定非営利活動法人 日本アート基金
有限責任 あずさ監査法人

(敬称略・五十音順)

4. 助成・委託 など

日本郵便 年賀寄附金配分事業	「難民の子弟などの外国人住民と地域住民のグリーンツーリズムを通じた多文化共生推進事業」
文化庁 委託事業	「生活者としての外国人」のための日本語教育事業」地域日本語教育実践プログラム (A)
一般財団法人 柳井正財団	「集中学習支援教室」
東京都在住外国人支援事業	「難民等定住外国人住民と日本人住民が共に学び、成長する「学習支援室」充実化事業」
エドワーズライフサイエンス株式会社	「エドワーズライフサイエンス基金」 (※) 2017 年 6 月 完了予定
日本アイ・ビー・エム株式会社	「IBM コミュニティグラント・プログラム 2016」

事業実施期間 : 2016 年 4 月 ～ 2017 年 3 月

VI. 平成 28 年度 決 算・監査報告

資金収支計算書					
		(自) 平成28年4月1日		(至) 平成29年3月31日	
				本部拠点	
				(単位：円)	
勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
収入	生活支援事業収入	10,640,000	11,221,317	-581,317	
	その他の事業収入	10,640,000	11,221,317	-581,317	
	受託事業収入	5,960,000	5,964,476	-4,476	
	その他の事業収入	4,680,000	5,256,841	-576,841	
	会費収入	1,200,000	1,770,000	-570,000	
	正会員費収入	1,200,000	1,770,000	-570,000	
	経常経費寄附金収入	32,000,000	32,612,377	-612,377	
	受取利息配当金収入	10,000,000	10,001,141	-1,141	
	その他の収入		796,685	-796,685	
	雑収入		796,685	-796,685	
	流動資産評価益等による資金増加額			0	
	有価証券売却益			0	
	有価証券評価益			0	
	事業活動収入計(1)	53,840,000	56,401,520	-2,561,520	
事業活動による収支	人件費支出	18,604,000	18,720,263	-116,263	
	職員給料支出	16,000,000	16,169,499	-169,499	
	職員賞与支出	850,000	830,000	20,000	
	非常勤職員給与支出	30,000	34,260	-4,260	
	法定福利費支出	1,724,000	1,686,504	37,496	
	事業費支出	51,876,803	48,516,839	3,359,964	
	生活支援金支出	18,500,000	16,347,378	2,152,622	
	生活相談費支出	2,800,000	2,747,517	52,483	
	被災者支援金支出	16,000,000	16,000,000	0	
	旅費交通費支出	1,650,000	1,441,996	208,004	
	通信運搬費支出	425,342	425,342	0	
	会議費支出	350,000	212,338	137,662	
	謝金支出	3,300,000	3,226,708	73,292	
	業務委託費支出	5,900,000	5,356,432	543,568	
	諸会費支出			0	
	消耗器具備品費支出	616,461	616,461	0	
	手数料支出	150,000	144,296	5,704	
	保険料支出	100,000	87,594	12,406	
	賃借料支出	1,050,000	967,036	82,964	
	印刷費支出	1,000,000	911,393	88,607	
	雑支出	35,000	32,348	2,652	
	事務費支出	4,515,000	2,264,594	2,250,406	
	福利厚生費支出	150,000	140,600	9,400	
	旅費交通費支出	35,000	42,330	-7,330	
	研修研究費支出			0	
	事務消耗品費支出	200,000	156,419	43,581	
	印刷製本費支出	500,000	372,398	127,602	
	水道光熱費支出			0	
	修繕費支出			0	
	通信運搬費支出	500,000	494,113	5,887	
	会議費支出	50,000	26,367	23,633	
	広報費支出			0	
	業務委託費支出			0	
	手数料支出	120,000	78,514	41,486	
	保険料支出			0	
	賃借料支出			0	
	土地・建物賃借料支出	720,000	733,392	-13,392	
	会員名簿支出	1,000,000			

事業活動による収支	支出	租税公課支出			0	
		保守料支出			0	
		諸会費支出			0	
		謝金支出	220,000	219,111	889	
		佐賀事務所開設準備費	1,000,000			
		雑支出	20,000	1,350	18,650	
		支払利息支出			0	
		その他の支出	0	0	0	
		雑支出				
		徴収不能額				
		事業活動支出計(2)	74,995,803	69,501,696	5,494,107	
		事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	-21,155,803	-13,100,176	-8,055,627	
施設整備等による収支	収入	固定資産売却収入				
		車輛運搬具売却収入				
		器具及び備品売却収入			0	
		その他の施設整備等による収入				
		施設整備等収入計(4)	0	0	0	
	支出	固定資産取得支出				
		土地取得支出				
		建物取得支出				
		車輛運搬具取得支出				
		器具及び備品取得支出				
		固定資産除却・廃棄支出				
		施設整備等支出計(5)	0	0	0	
		施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	0	0	0	
その他の活動	収入	その他の活動による収入				
		その他の活動収入計(7)	0	0	0	
	支出	その他の活動による支出				
		その他の活動支出計(8)	0	0	0	
		その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	0	0	0	
		予備費支出(10)	500,000		368,197	
			-131,803			
		当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	-21,524,000	-13,100,176	-8,423,824	
		前期末支払資金残高(12)	31,343,097	31,343,097	0	
		当期末支払資金残高(11)+(12)	9,819,097	18,242,921	-8,423,824	
(注) 予備費131,803円は通信費支出75,342円、事務消耗品支出56,461円を充当した額である						

貸 借 対 照 表							
平成29年3月31日現在 (単位：円) 本部							
資 産 の 部				負 債 の 部			
	当 年 度 末	前 年 度 末	増 減		当 年 度 末	前 年 度 末	増 減
流動資産	18,440,266	31,514,962	-13,074,696	流動負債	197,345	171,865	25,480
現金預金	18,440,266	31,497,466	-13,057,200				
立替金							
前払金		17,496	-17,496				
				職員預り金	197,345	171,865	25,480
固定資産	200,038,829	200,017,600	21,299	固定負債			
基本財産	100,021,229	100,000,000	21,229				
定期預金	100,021,229	100,000,000	21,229				
その他の固定資産	100,017,600	100,017,600	0				
土地	17,600	17,600	0				
				負債の部合計	197,345	171,865	25,480
				純 資 産 の 部			
				基本金	100,000,000	100,000,000	0
				次期繰越活動増減差額	118,281,750	131,360,697	-13,078,947
投資有価証券	100,000,000	100,000,000	0	（うち当期活動増減差額）	-13,078,947	-7,279,409	-5,799,538
什器備品	0	0	0				
				純資産の部合計	218,281,750	231,360,697	-13,078,947
資産の部合計	218,479,095	231,532,562	-13,053,467	負債及び純資産の部合計	218,479,095	231,532,562	-13,053,467

監 査 報 告 書

社会福祉法人さぼうとにじゅういち の 2016 年度(平成 28 年度)の業務並びに
財政に関する監査を実施した結果、公正かつ適正に事業が実施され、財政が
運営されているものと認め、ご報告申し上げます。

平成 29 年 5 月 23 日

社会福祉法人さぼうとにじゅういち

監事 稲岡 稔 
稲岡 稔

監事 沼田 安弘 
沼田 安弘

監事 水上 洋一郎 
水上 洋一郎

VII. 役員一覧

理事長	ふきうら 吹浦	ただまさ 忠正	ユーラシア21研究所 理事長 / 拓殖大学大学院 客員教授
------------	-------------------	-------------------	----------------------------------

理事	あおき 青木	ひでしげ 秀茂	弁護士
	かきひら 垣平	つうせい 通世	東北ホモボード工業株式会社 代表取締役会長
	こまつ 小松	ひろし 博史	日本コンサルタンツ株式会社
	のすえ 野末	ひさし 尚	東洋熱工業株式会社 最高顧問
	ふかや 深谷	ともひろ 友尋	フシミコーポレーション株式会社 代表取締役会長
	やまだ 山田	ひろし 寛	元嘉悦大学教授／元読売新聞 アメリカ総局長

事務局長 (理事)	たかはし 高橋	きょうこ 敬子	元東京都外国人相談室 相談員
----------------------	-------------------	-------------------	----------------

監事	いなおか 稲岡	みのる 稔	ブルリッジ・アストリア・インスティテュート LLC 東京代表 元 セブン・アンド・アイ・ホールディングス 常務
	ぬまた 沼田	やすひろ 安弘	弁護士
	みずかみ 水上	よういちろう 洋一郎	公益財団法人日韓文化協会 顧問 元東京入国管理局長

顧問	かわい 河合	ひろゆき 弘之	弁護士
	まつなが 松永	ち え こ 知恵子	NPO 法人危機の子どもたち・希望 理事

評議員	あ べ 阿部	やすひさ 恭久	サンキョー株式会社 代表取締役社長
	いけがみ 池上	き よ こ 清子	日本赤十字社 常任理事／日本大学大学院 教授
	おおぬき 大貫	やす お 康雄	公益社団法人自由報道協会 代表理事 / 元 NHK ヨーロッパ総局長
	こ ぎ 古木	けんぞう 謙三	株式会社グローバルユースビューロー 代表取締役社長
	じ け む ら 寺家村	ひろし 博	拓殖大学 教授
	しまだ 島田	たかの 貴乃	さぼうと21 ボランティア
	たか の 高野	やすひろ 泰宏	高野興業株式会社 代表取締役
	たなべ 田辺	ひさお 寿夫	ジャーナリスト / 元 NHK 国際局 チーフディレクター
	にしはら 西原	すずこ 鈴子	国際交流基金 日本語国際センター 所長
	やなせ 柳瀬	ふ さ こ 房子	認定 NPO 法人難民を助ける会 会長

(2017 年 3 月 31 日 現在)